

教育効果の高い面談を実現するための  
アセスメントデータと学生カルテの活用

ベネッセ教育総合研究所  
岡田 佐織

アサーティブ面談のノウハウは、  
入学後の面談指導にどう活かすことができるか？  
→→→ 他大学にどう転用できるか？

- (1) アサーティブ面談は「何をしている」のか？
- (2) アセスメントやアンケートは  
面談指導にどう使えるか？ どうやって使うのか？
  - 面談対象者の特定、優先順位づけ
  - 面談での対話を深める
- (3) 効果の高い面談を実現するための学生カルテとは？
  - どのように意思決定を支援できるか？
  - 学内での連携・申し送りを可能にするには？

この3つを、徹底的に問いかける。

## キャリア



- どのように生きていきたいか？
- 卒業後に何がしたいか？
- そのために、大学で何がしたいか？

## 学習



- 大学で何を学びたいのか？ それはなぜか？

## 納得

- なぜそれを追手門学院大学で学びたいのか？

この3つが、相互にしっかりと結びついているかどうかを確認する。

ただし、問いかけても、往々にして出てこない場合がある。  
そこをどう引き出すかが、「育成型入試」であるこの取り組みの肝。

	振り返り	見通し、動機づけ	遂行 ※
キャリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分はどんな人間だと思うか？</li> <li>どんなことに取り組んできた？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように生きていきたいか？</li> <li>卒業後に何がしたいか？</li> <li>そのために、大学で何がしたいか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路選択や目標実現に向けて、今取り組んでいることは何か？</li> <li>これから志望校を決定するまでの間に（次の面談までに）何をする？</li> </ul>
学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校までの学びや様々な活動を通して、どんなことを得てきたのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学で何を学びたいのか？それはなぜか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校で何に取り組んでいるのか？なぜそれに取り組んでいるのか？</li> <li>どのように学習に取り組んでいるのか？（自習時間、読書、予習・復習は？）</li> </ul>
納得		<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ追手門学院大学で学びたいのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のことを正しく理解できているか？ （次の面談までに、他大学も比較しながら調べさせる）</li> </ul>

過去にさかのぼって話を聞きながら、「思い」を引き出していく

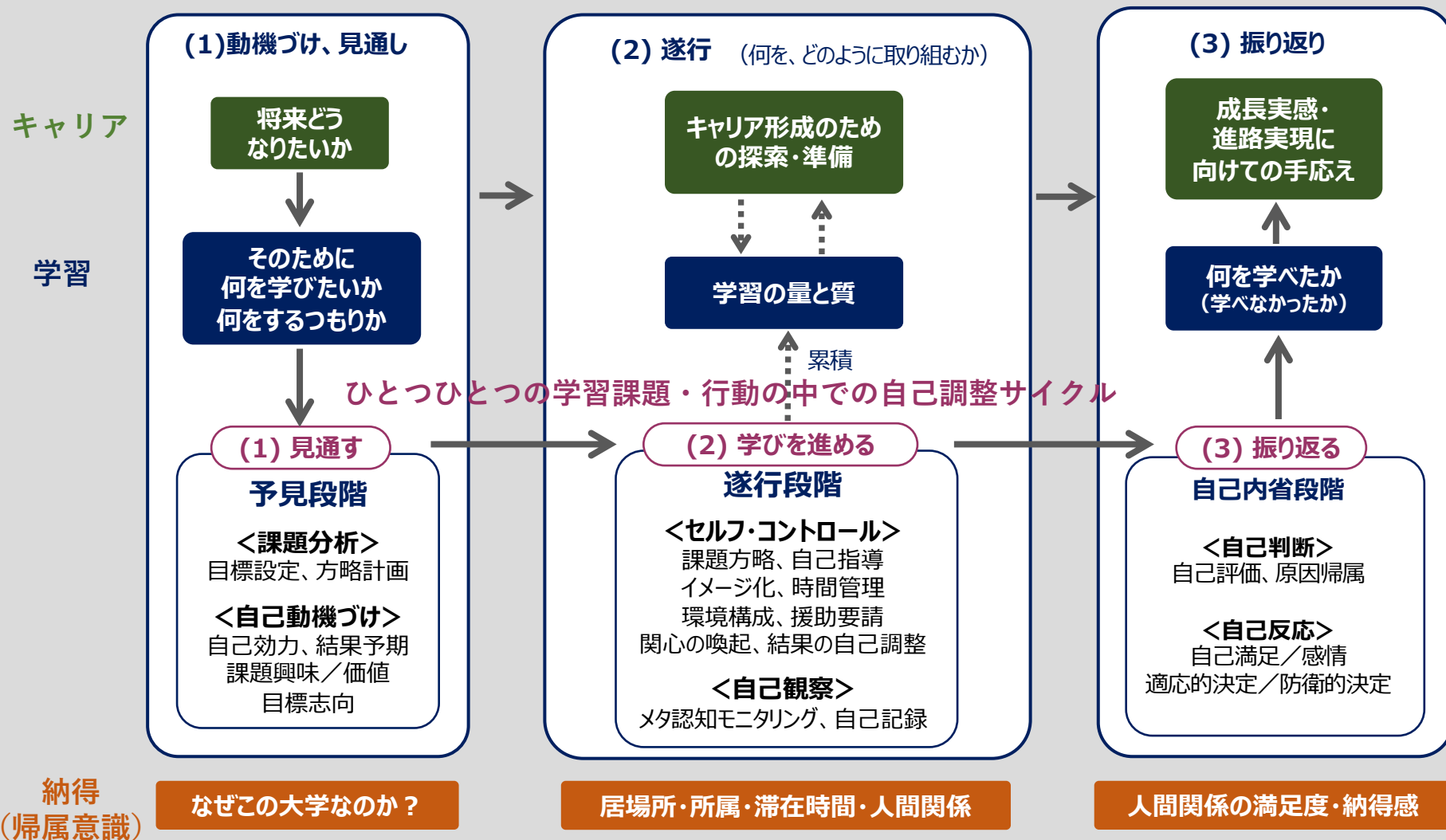
その「思い」は本物なのか、時にはゆさぶり、実現に向けての行動が伴っているかを確認する。次にすべきことを考えるための視野を広げる。

対話を通して行き来しながら  
見通しと動機づけを確かなものにしていく

# アサーティブ面談は、何をしているのか？

追手門学院大学でのアサーティブプログラム・入試は、キャリア成熟と学習の自己調整サイクルを紐付けるとともに、このサイクルをみずから回せる学生を育て、選抜しようとしているのでは？

【学生生活全体を通したキャリア成熟のサイクル】



面談を行うと＜キャリア ⇄ 学習 ⇄ 納得＞＜動機づけ ⇄ 遂行 ⇄ 振り返り＞の不一致・不整合が見えてくる。

### (1) 優先的に面談すべき対象者をアセスメントで絞り込む

- キャリア、学習、納得（帰属意識）の3観点から、大学への不満や課題を抱えていると思われる学生を抽出

### (2) 面談実施のフローシート（質問リスト）の作成

- ズレやギャップの析出から、対話を深める
  - 入学前に思い描いていた事と現在の状況とのギャップ
  - 希望する進路や、やりたいと思っていることと実際にやっていること、できていることとのズレ
  - 自己評価と他者評価のズレ

### (3) 学生カルテに掲載すべき情報・フォーマットの検討

- 程度や水準の評価をするのは困難  
(人によって合否ラインや着目するポイントが異なり、評価結果が合致しない)  
→ 行動の有無、該当の有無など、質的な違いとして記述・分類  
(「この学生にとっての次の一步は何か」については、評価が一致する)
- 意思決定・判断の根拠となる情報を記載

## <ネガティブ：適応上のリスクがある状態>

### 大学への帰属意識、生活

- この大学に入学したことに納得していない
- この大学ならではの良さを感じていない
- 親しい友人がいない、大学に居場所がない
- 周囲の学生の意識が低く感じられる
- 人間関係のトラブル・悩みがある
- 健康、経済状況、家族の状況等の不安・悩み

### 学習

- 興味関心と専攻が不一致
- 授業についていけない、理解できない
- イメージしていた内容と違う、やりたいことができていない

### キャリア（成長への期待、進路実現）

- この大学で学ぶことで成長できると感じられない（手応えや成長実感が乏しい）
- 希望する進路と学んでいる内容が不一致
- 学んでいることと将来とのつながりが感じられない

## <ポジティブ：順調に学んでいる状態>

### 大学への帰属意識、生活

- 切磋琢磨できる友人や目標となる先輩が学内にいる
- 熱中して打ち込んでいるものがある

### 学習

- 高い目標と目的意識を持って履修科目を選んでいる
  - ・ 自分の興味関心や目標に照らして選択
  - ・ 厳しいと言われている授業であっても
  - ・ 上級学年や院生向けの科目も聴講
  - ・ 興味の少し外のことも学んでみようとする
- 熱意をもって、主体的に学習をしている
  - ・ 指示された課題以外の本を読む
  - ・ 学んだことを実生活で応用してみる
  - ・ 先生の所へ質問・対話しに行く
  - ・ 「この先生に学びたい」という人がいる

### キャリア（成長への期待、進路実現）

- 学びや活動を通して、成長の実感や手応えがある
- 将来必要となる知識、スキル、人脈等を得るための場に参加している、準備している
- 視野や選択肢を広げるような探索行動がある

面談で行うこと

適応上の重大なリスクの解消

学びや活動の質を高める

さらなる挑戦の後押し

A

B

C

**納得 (帰属意識)**

\* 学生生活上の課題を含む、以下同様

大学納得度

学部・学科のお勧め度

充実度

入学後のイメージ変化

友人との人間関係に対する満足度

周囲の学生の意識が高い・低い

大学の校風や雰囲気は、自分に合っている

再受験・退学の検討

困っていること

(教員との人間関係、友人、異性、先輩・後輩との人間関係、経済的な事情)

\* 下記の項目をもとに、インタビュー対象者を抽出

\* 現在の項目は、巻末の資料を参照

**学習**

興味関心の一致度

授業内容への満足度

興味関心のある科目が多い・少ない

授業のレベルが高すぎる・低すぎる

困っていること

(授業についていけない、学びたいことが見つからない、学びたいことが学べていない)

**キャリア (成長への期待、進路実現)**

大学での学びを通じて、自分が成長できるイメージを持っている

成長を感じられる授業が多い・少ない

困っていること

(やりたいこと (就職・進路面) が見つからない、希望する進路に進めるか不安)



A

本当は専門学校で車の整備を学びたかった（家業を継ぐため）。大学になじめておらず、単位数が足りない。

専攻内容に興味を持ってない。単位がほとんどとれていない。家業を継ぐことを決めて以来、小説や教養書を読み始めた。

心理学がやりたかったのに、1年次にほとんど学べず、春の時点では退学しようと考えていた。母親の助言で退学を思いとどまっているが、今も成長実感はない。

なんとなく大学・学部を選び進学。周囲の学生とは合わない、アルバイト先の社会人の方が気が合うと感じている。

B

自分は勉強ができない、という意識があり、資格を取得したいと思いつつも、チャレンジを躊躇。やっていけそうな授業を選択。

部活が生活の中心。学びにはあまり手応えを感じていない（学習面でも充実感を得たいとは思っている）

周囲の学生と比べてできていない、グループワークが苦手と感じている。1年たって少し慣れてきた（自信がなさそうにしているが、こつこつ学習できている）

C

1年次は入学前にイメージしていたような実習がなく意欲低下。2年になってゼミがはじまると、充実してきた。旅行先で学んだことをもとに考えたりしている。

留学資金を稼ぐため、アルバイトのし過ぎで疲弊。今はその生活を見直した。自立欲求が強く、ボランティア、資格取得など、やりたいことが多方面にある様子。

当初はノートを取るのが苦手で、授業についていけない感じがあったが、ノート取りは友達に任せるなどやり方がつかめてきた。専攻に関連するサークルに入るなど、多方面で積極的に活動。

アサーティブ入試による入学者

アサーティブ以外の入試による入学者

### フィードバック内容、事後対応

#### 適応上の重大なリスクの解消

- ・ 障害を取り除くための選択肢の提示（大学の支援策を含む）
- ・ 気にかけていることを伝える
- ・ 継続的な声掛け、見守り
- ・ チームでサポートする体制を作る（関係部署との連携など）

#### 学びや活動の質を高める

- ・ 進捗やプロセスの確認とできていることの承認
- ・ やりかたの軌道修正
- ・ 目標と手段の再設定をサポート
- ・ やるべきことの意味づけ
- ・ 今後の見通しをもたせる

#### さらなる挑戦の後押し

- ・ 挑戦できる場や機会の紹介（授業、準正課プログラム、プロジェクト活動等）

- ① 意味づけと承認 → 学び・行動の後押し
- ② 対話から、気づきを与える  
(相互理解を深める、「次の一歩」を確認する)
- ③ 大学型の学びへの適応状況、学生生活における困りごと・悩みの確認
  - 課題や悩みの解決に役立つ学内リソースの紹介
  - 「別の選択肢」の提示、検討



そのために必要な、学生カルテとは？

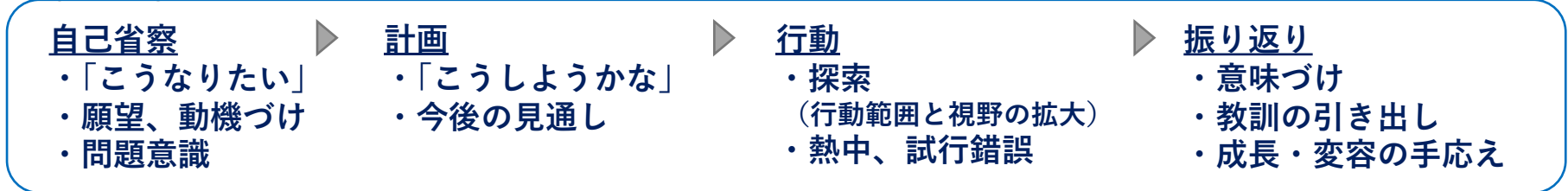
カルテに必要なのは、指導のための意思決定・判断のよりどころになる情報

(1) 学生はいま、どのステージにいて、どのような支援を必要としているか？



- 適応リスクの解消  
= 大学生活全体と通しての大きな自己調整サイクル（見通し-遂行-振り返り）が回っているか？
- 学びや活動の質を高める  
= 授業や日々の取り組みの中で、小さな自己調整サイクルが回っているか？（きちんと学べているか）
- 挑戦の後押し  
= 全力で何かに取り組む（=フル・エンゲージメント）の状態になっているか

(2) プロセスのどこに課題があるか？  
\*ただし、意欲的で問題がなさそうに見える学生であっても、別の側面では見守りや助言が必要なことも



- それぞれの要素があるか？（特に、具体的な行動があるか？）
- 前段階の内容に対して、後段階の内容は適切か？（目的と手段の対応関係）
- キャリア-学習（大学全体）-学習（個別の科目・課題）が相互に紐づけられ入っているか？
- それぞれの要素の「深さ」「精緻さ」

■ 現在のステージ



<ネガティブリスト>

帰属

- この大学に入学したことに納得していない
- この大学ならではの良さを感じていない
- 親しい友人がいない、大学に居場所がない
- 周囲の学生の意識が低く感じられる
- 人間関係のトラブル・悩みがある
- 健康、経済状況、家族の状況等の不安・悩み

学習

- 興味関心と専攻が不一致
- 授業についていけない、理解できない
- イメージしていた内容と違う、やりたいことができていない

キャリア

- この大学で学ぶことで成長できると感じられない  
(手応えや成長実感が乏しい)
- 希望する進路と学んでいる内容が不一致
- 学んでいることと将来とのつながりが感じられない

<ポジティブリスト>

- 切磋琢磨できる友人や目標となる先輩が学内にいる
- 熱中して打ち込んでいるものがある
- 高い目標と目的意識を持って履修科目を選んでいる  
例) ・自分の興味関心や目標に照らして選択  
・厳しいと言われている授業であっても避けない  
・上級学年や院生向けの科目も聴講  
・興味の少し外のことも学んでみようとする
- 熱意をもって、主体的に学習をしている  
例) ・指示された課題以外の本を読む  
・学んだことを実生活で応用してみる  
・先生の所へ質問・対話しに行く  
・「この先生に学びたい」という人がいる
- 学びや活動を通して、成長の実感や手応えがある
- 将来必要となる知識、スキル、人脈等を得るための場に参加している、準備している
- 視野や選択肢を広げるような探索行動がある

■ プロセス評価

	自己省察	計画	行動	振り返り
学習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
キャリア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

# ■ チェックシート（学生と面談者がおのこのの評価結果を突き合わせて対話する）

## ※ 検討の途上のもの。カルテに記載するプロセス評価の観点と対応していることが望ましい。

### 省察

#### (1) 経験の意味づけ・価値づけの習慣

言語化できない または しようとしていない	過去の行動について、 ただしいながらも 語るができる	過去の行動とその意図、 感じたことなどを率直に 言語化・説明できる	些細な出来事からも 気づきや教訓を引き出し、 言語化・説明できる
-----------------------------	----------------------------------	---	--

#### (2) 自己を深く理解している（多面的・重層的で、かつ一貫性がある）

「自分はこのような 人間である」ということを 表現できない	現在の自己に影響を 及ぼした過去の経験や 出来事について、何かしら 語るができる	自己について、強み・弱みや 価値観・志向性など、 多様な角度から表現する ことができる (それぞれが点とある状態)	過去の多様な経験がどのように 現在の自分を形成しているか、 相互に結びつけて語ることが できる（一貫性のあるストー リーになっている状態）
-------------------------------------	---	---	---

#### (3) 自己を肯定的に捉え、表現できる

「自分はこのような 人間である」ということを 表現できない	自己について 語ることはできるが、 否定的な要素が多い	自己について、 肯定的に表現できる	自己について、肯定的な感情 が基礎にありながらも、肯定的 な面・否定的な面をバランスよく 客観的に認知し表現できる (とりよげでない)
-------------------------------------	-----------------------------------	----------------------	---

### 将来の進路選択・実現に向けての探索と実行

#### (1) 学生生活の中で、何に注力し、何を達成したいかが明確になっている

与えられるものだけを 最低限こなしているだけ (無気力、なんとなく流され て日々が過ぎていく)	これをやりたい、こうしたとい う思いや計画はあるが、 行動に移せていない	自分の好きなこと・やりたいこ とを起点に、範囲を広げる 行動を起こしている	好きなこと・やりたいことでない ことの中にも、貪欲に 興味を持つることや 自分にとっての学びを 見つけようとしている
--	--	---	--

#### (2) 将来、どのように生きていくか、視野と選択肢を広げながら模索している

将来について 何も考えていない、 考えることを 先延ばししている	こうなりたいたいものはある が、考え方が狭い、思い込 み・独りよがりな部分がある、 現実を踏まえていない	適切な現実理解・自己理解に 基づいて、「こうなりたい」という ビジョン・イメージを持っている	適切な現実理解・自己理解に 基づく将来ビジョン・イメージを 持ったうえで、更に視野や選択 肢を広げるための行動がある
---	---	--	---

#### (3) 進路選択・実現のための計画・行動がある

将来に向けての 計画がない	「いつごろ何に取り進む」と いう大まかな計画はあるが、 具体的な行動として何をす るかが見えていない、 いますべきことに 取り組めていない	将来に向けての 大まかな計画があり、 いますべきことに 取り組めている (具体的な行動がある)	将来に向けて、いつ何を すべきかが明確になっており、 今すべきことについて 高い負荷・水準で 取り組めている
------------------	--	---	--

1

3

### 「いまの自分」を超えるための探索と実行

#### (1) 自分の学びや興味関心の範囲を広げようとしている

与えられるものだけを 最低限こなしているだけ	これをやりたい、こうしたとい う思いや計画はあるが、 行動に移せていない	自分の好きなこと・やりたいこ とを起点に、範囲を広げる 行動を起こしている	好きなこと・やりたいことでない ことの中にも、貪欲に 興味を持つことや 自分にとっての学びを 見つけようとしている
---------------------------	--	---	---

#### (2) 自分のできることを広げようとしている（成長に向けての意欲と行動）

こうなりた、という 気持ちも行動もない	伸ばしたい強み・克服したい 弱みへの意欲はあるが、 実現に向けての一步を 踏み出せていない	成長のため、または成長に つながる何かに取り組んでいる	成長のために、高い負荷を 意図的に自らに課している
------------------------	--	--------------------------------	------------------------------

#### (3) 視野の狭さ、価値観の偏りを克服するような努力をしている

自分の視野の狭さ、 価値観の偏りについて 評価する視点がない (問題意識がない)	問題意識は感じているもの の、ありきたりな「努力目標」 にとどまっている	自分の状況を常にモニタリ ングして、視野を広げるための 行動を起こしている	意図的に価値観や立場の異 なる人と接したり、新しい環境 に身を置いたりするなどして、 自らを変えようとする「仕組み化」 している
---	--	---	--

### 大学での適応状況

#### (1) 大学での学びを通じて、自身の成長や楽しさ、学が意義を実感している

大学での学びが つまらない・苦痛	時々楽しいこともあるし、苦 痛までは言わないが、 何のために学んでいるのか 意義を感じられない	大学での学びを通して、 自身が成長できる イメージや実感がある。 学ぶことの意義が感じられる	大学での学びに 没頭している。 今まさに、成長や 楽しさを実感している
---------------------	--	---	--

#### (2) 学内に、切磋琢磨したり助け合ったりできるコミュニティ、人間関係がある

困ったときに頼れる友人が 周囲にいない	周囲に仲の良い友人は いるものの、必要な援助を 求めていない・獲得できて いない	困ったときに助けられる友人が 身近にいて、単位取得や課外の 経済へのサポートが得られている。 学内に濃密なコミュニティがある	高い目標を持ってお互いに 切磋琢磨できる友人がいる、 またはそのようなコミュニ ティがある。
------------------------	---	---	---

学内に、気軽に話ができて、目をかけてくれる教員や職員がいる 所属・名前 ( )

#### (3) 学生生活の延長に、納得できる進路選択や希望進路の実現がイメージできる

将来やりたいこと を学んでいることの間 に齟齬があり、そのこと に苦痛や疑問を感じている	大学での学びや学生生活は それなりに楽しめているが、 ここで適当なことを将来にどう つながるのか、見えていない	大学での学びや学生生活を 頑張ることで、よりよい 進路選択や希望の実現に つながるはずだ、という 期待を持っている	大学での学びや日々の取 組みが将来の何につながるのか つながりたいのか、明確に意識し ながら日々を過ごしている
---	--	---	--

2

4

## 大学にとって

- ・学生を多面的に理解できる（授業では、見せる顔が異なることも）
- ・ラポールを形成し、レディネスを見極めたうえで効果的な指導ができる
- ・継続的なフォローができる、チームで対応できる
- ・自大学の課題や強みが発見できる、施策の優先順位づけができる

## 学生にとって

- ・認められた・見てもらえているという安心感が得られる
- ・信頼関係ができることで、耳の痛いことでも受け止められる
- ・振り返り、意味づけの機会になる
- ・目標・手段の見直しができる、やり方の軌道修正ができる
- ・新たなチャレンジの契機となる
- ・学びの意味が分かる、見通しが持てる

成長のプロセスを相互に確認・共有できる  
アセスメントツールとカルテ（ポートフォリオ）が必要

# 參考資料

## 納得 (帰属意識)

\* 黒字は新入生用・在校生用共通の項目

\* 青字は在校生用の項目

大学志望度  
 大学納得度  
 大学、学び方の魅力  
 教育目標・カリキュラム・授業内容の理解  
 他大学の再受験や退学を検討している  
 友人ができるか不安  
 授業料の納付などに不安がある

勉強面/進路面で相談できる友人が学内にいる  
 ちょっとしたことでも相談できる教員がいる  
 大学の校風や雰囲気は、自分に合っている  
 友人との人間関係の満足度  
 困っていること  
 ・ 教員との人間関係  
 ・ 友人、異性、先輩・後輩との人間関係  
 ・ 経済的な事情

## 学習

興味関心の一致度  
 学部・学科志望度  
 他の学部・学科に編入したい  
 読書量、自習時間 (週あたり)  
 必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む  
 グループワークやディスカッションに積極的に参加する  
 授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く  
 興味を持ったことについて自主的に学習する  
 高い目標を持って学ぼうと思っている  
 あまり興味がなくても、単位を楽に取れる授業がよい ⇨ 授業がよい

カリキュラム・授業内容・学生支援等に対する満足度  
 大学の各種施設の利用頻度  
 能力・スキル向上に対する授業の役立ち度  
 科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている  
 困っていること  
 ・ 授業についていけない  
 ・ 学びたいことが見つからない  
 ・ 学びたいことが学べていない  
 ⇨ 単位を取るのが難しくても、自分の興味のある

## キャリア (成長への期待、進路実現)

この大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う  
 普段から自分なりの意見や視点を持つようとしている  
 失敗しそうでであっても、いろいろなことに挑戦してみた  
 考え方や立場の異なるさまざまな人と交流したい  
 卒業後の希望進路  
 専門領域と希望進路との関係  
 自分が就きたい職業や仕事明確になっている  
 自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている

大学で成長した実感がある  
 困っていること  
 ・ やりたいこと (就職・進路面) が見つからない  
 ・ 希望する進路に進めるか不安

\* 大学が独自に設問を設定可能 (10問)



思考力

- ・ 批判的思考力
- ・ 協働的思考力
- ・ 創造的思考力

姿勢・態度

- ・ レジリエンス
  - ・ 感情の制御 (ストレス耐性)
  - ・ 立ち直りの早さ (回復力)
  - ・ 状況に応じ冷静に対応する力 (自己統制力・柔軟性)

性)

- ・ リーダーシップ
  - ・ 自ら先頭に立って進める力 (自主性・率先性)
  - ・ 未知のものに挑戦する力 (チャレンジ精神・開放性)

経験

- ・ 自己管理
  - ・ 挑戦する経験
  - ・ 続ける経験
  - ・ ストレスに対処する経験
- ・ 対人関係
  - ・ 多様性を受容する経験
  - ・ 関係性を築く経験
  - ・ 議論する経験
- ・ 計画・実行
  - ・ 課題を設定する経験
  - ・ 解決策を立案する経験
  - ・ 実行・検証する経験

性)

- ・ 粘り強くやり抜く力 (持続力・誠実性・勤勉性)

## ・ コラボレーション

- ・ 相手の立場に立とうとする姿勢 (共感性)
- ・ 他者と関わろうとする積極性 (外向性・親和性)

験

## I : 進学理由・入学前後の大学に対するイメージ

帰属

学習

キャリア

← 確認する領域

Q1 : 進学先として追手門学院大を選んだ理由を教えてください（率直に。どんな経緯でこの大学に入学したか）。

SQ1-1 : 他に受験した大学、学部・学科は？

SQ1-2 : 追手門大学の志望の強さは？

Q2 : 入学してみて、当初のイメージや期待どおりでしたか？（よかった・悪かった、イメージと合致、ズレなど）

SQ2-1 : （「進学理由」に、学びに関する内容が出てこなかった場合）学びの領域としては、何に興味関心がある？

## II : 普段の過ごし方や、普段取り組んでいること（人間関係に関する質問を含む）

帰属

学習

キャリア

Q3 : 部活・サークルへの所属、アルバイト、ボランティア活動など、普段取り組んでいることについて教えてください。

SQ3-1 : 普段の友だち付き合いの中で、最も仲のよい（関係性が深い）のはどのような人ですか？

（同じ学科、サークル・部活、バイト先、高校時代の友人など、どのコミュニティと関係が深いのか、どんなふうにご過ごしているか）

SQ3-2 : 学内で（友人でなくても可）「すごいな」「かなわないな」と思う人や、いい刺激を受ける人はいますか？

SQ3-3 : 学内の学生を、「すごいと思う人」「自分と同じくらい」「意識が低いな」と思う人の3つの種類にざっくりと分けたとき、何対何対何に分かれるイメージですか？

Q4 : 1週間の時間配分、力の入れ方の比重・一番力を入れていることは？

Q5 : 普段の大学の授業の予習・復習や、授業以外の自主的な勉強にどれくらい取り組んでいますか？（時間＋内容）

SQ5-1 : 1週間の中で、読書をする機会がありますか？（ある）どのような種類の本を、どれくらい読みますか？

SQ3-1 : 授業の空き時間は、どこでどのように過ごしていますか？

## Ⅲ：学びについて（時間割表・これまで履修した科目の一覧を見ながら確認）

帰属  学習  キャリア

Q6：大学の授業は楽しいですか？ 授業を通して、自分が成長している、という実感はありますか？

SQ6-1：一番面白かった、成長できたと思う科目、印象に残っている科目を教えてください(理由とその授業内容)

SQ6-2：一番面白くなかった、ついていけない、しんどかった科目を教えてください(理由とその授業内容)

SQ6-3：一番面白かった科目、一番面白くなかった科目における、先生との関わりの有無や「質」の違いをお聞かせください

SQ6-4：他大学や他学部・他学年の学生と学ぶような機会はこれまでにありましたか？（他流試合の機会の有無）

Q7：履修登録前、どの科目を履修するか考える際に、何を基準に選択していますか？

SQ7-1：シラバスはどのように使っていますか？何を重視して科目・授業を選んでいますか？

SQ7-2：次学期以降、学んでみたい科目、楽しみにしている授業はありますか？ → ある場合は内容を追加質問。

SQ7-3：大学の4年間を通じて、何をどのように学んでいくか、イメージ（見通し）を持っていますか？

## Ⅳ：進路・将来展望

帰属  学習  キャリア

Q8：大学卒業後、どのような進路を希望していますか？（決まっていなければ複数の選択肢でもOK）

Q9：10～15年後、どのような生き方をしたいと思いますか？

（イメージできなければ、こういう生き方がしたい、優先したい事など）

SQ8・9-1：なぜそれ（ら）をしたいと思うようになったのか？（そのきっかけ・動機）

SQ8・9-2：希望する進路の実現にむけて（あるいは希望する進路を見つけるために）これまでにしてきたことはある？

SQ8・9-3：希望する進路の実現にむけて（あるいは希望する進路を見つけるために）これからしたいことはある？

## V : 学生生活全般について

■ 帰属    ■ 学習    ■ キャリア

Q10: これまでの学生生活+「今」の現状を総合して、満足度を評価したとき、100点満点の何点くらいですか？

SQ10-1 : 100点との差分の理由を教えてください。（どうすれば、何があれば残り●点は埋まりそうですか？）

SQ10-2 : この大学に入学してよかったと思いますか？

Q11: これから卒業までの間に、取り組んでみたいこと、やってみたいことは何かありますか？

SQ11-1 : （ある場合）それを実現する上で、今、課題に感じていること、不足していると思うことは何ですか？

SQ11-2 : それらの課題を解決するために、具体的にどうしようと考えていますか？

## VI : 悩み・困っていることなど

■ 帰属    ■ 学習    ■ キャリア

Q12 : 学生生活の中で、困っていること・悩み・解決したいことはありますか？

例えば、・・・について（例として出す）1) 生活面、2) 人間関係面、3) 学習面、4) 進路面、5) その他

SQ12-1 : 何か悩みがある場合、身近に相談できる人はいますか？

（今悩みはなくても、困った時に学内で誰か相談できる人はいますか？）

SQ12-2 : 学内に相談先があることを知っていますか？

（学内の相談先を列挙してもらい、挙がらなかったものについて面談者から提示）

→ いざとなったとき、相談してみようと思いますか？それとも敷居が高い？（何があれば相談しやすい？）

Q13 : 大学に対する要望、不満はありますか？

SQ13-1 : これまでに「履修したかったけれど履修できなかった」「事前に知っていたら履修したかった」授業など

はありますか？大学からの授業や教育プログラムに関する情報提供についてどのように感じていますか？